

第45回応用言語学講座公開講演会

後援：名古屋大学大学院国際言語文化研究科 教育研究プロジェクト経費

「人文学としての言語学・応用言語学若手研究者の発信力強化プロジェクト」

現代日本語の逆接表現をめぐって —日本語学と日本語教育の立場から

学習院大学教授
前田直子先生

講演内容

近年、日本語研究の分野では逆接表現の研究が増加の傾向にある。現代日本語に限っても、逆接表現には「けど（けれども・けれど）」「が」「のに」「ても」といった基本表現のほか、周辺的な形式として「たって」「たところで」「ようと」「こそすれ」「ながら」「にもかかわらず」「くせに」「ものの」など多くがあり、また無標の「て」形が逆接を表す場合もある。本講演では、逆接表現の研究の流れを概観し、今、何が課題であるのかについて考える。また、これまで違いが指摘されることが少なかった「けど（けれども・けれど）」と「が」の文法的・意味的違い、および文体差・位相差を検討し、日本語教育の分野への応用について考える。

■ 日時：2017年2月21日(火) 午後3時30分～5時00分

■ 場所：名古屋大学東山キャンパス 全学教育棟北棟4階406室

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>

■ 交通案内：地下鉄名城線「名古屋大学駅」①番出口徒歩5分

入場無料・事前申し込み不要

お問い合わせ：志波彩子 <a-shiba@nagoya-u.jp>